

(熊本県立天草拓心高等) 学校 令和5年度(2023年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「夢は空より高く 心は海より広く 道を拓かん」の校訓を基本理念とし、特色を生かした学びをとおして生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、これからの未来を創造する、心豊かで魅力あふれる人材の育成と地域から信頼される活気あふれた学校づくりを目指す。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 確かな学力を育成し、生徒一人一人に寄り添った指導の充実を図る ア 「主体的・対話的で深い学び」をとおして、課題解決を可能とする思考力、判断力、表現力等を育む イ 生徒の実態を的確に把握し、具体的な対応策を全職員で共有し、実践する ウ 充実したキャリア教育を通して、社会的・職業的に自立できる能力と態度を育む</p> <p>(2) 豊かな人間性を育成する ア 生命を大切にす心や個に寄り添う心を大切にし、人権尊重の精神を育む イ 規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う ウ 校舎間、学科間の交流により愛校心や連帯感を高め、他者と協働できる態度を養う</p> <p>(3) 心身の健康を自ら高め、管理する態度を養う ア 基本的生活習慣を確立するための態度を養う イ 情報モラル教育をとおしてSNSとのかかわり方を整える ウ 部活動、生徒会活動、学校行事等をとおして達成感や充実感を味わい、愛校心を育てるとともに自己肯定感を高める</p> <p>(4) 地域との連携・協働(地域から学び、自ら考え、地域に貢献できる人材育成) ア 学科の枠を超えて地元企業等と連携した実践的な課題解決学習の充実を図る イ 時代や地域のニーズ等を踏まえた学科の特色化を図る ウ 農業・商業及び海に学ぶ体験的・実践的な教育活動を展開する</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	重点目標の具現化	校舎制であることや7学科8コースを有する特徴を生かし、地域のニーズ等を踏まえた学校の特色化を図る	学校評価アンケートで各評価者の達成割合85%以上を目指す。	・KSH構想におけるクリエイティブハイスクールとしての事業実践の充実。 ・地域協働による課題発見や、その解決に向けた探究活動。	A	・クリエイティブハイスクールの指定2年目となり、1年生で行う「天草学」の定着とオンライン授業の実施により、校舎間の連携も充実している。また、2年生では学科毎にテーマ別の研究やカタリバを活用した校舎間の「総合的な探究」の取り組みを行うことができた。学校評価アンケートにおいて、「学科の特色を生かした教育活動が行われ、入学して(入学させて)良かったと思う」という問いに対して生徒・保護者93%、「十分達成できている」「おおむね達成できている」と回答し、昨年度より向上している。しかし、保護者の5%が「わからない」と回答している。学校HPの改善により1日の平均訪問者数は約800件(R4:約450件)に増加するとともにインスタグラムの開始などを行い、学校の魅力

					<p>発信を充実させているが、今後更に保護者との連携を深め、信頼関係を構築し、取組の周知及びPRを図っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本渡校舎では、天草産ウニ殻（産業廃棄物）を有効活用した鉢花栽培の研究継続やパン屋との商品開発・販売及び地域を紹介する観光案内本を作成し、天草市役所での配布準備を進めている。いずれの研究も地域課題の解決に貢献が期待され、自身の進路選択に繋がっている。 ・マリン校舎は、藻場造成を踏まえた天草産ウニの市場価値向上に向けた取組を行い、九州地区水産・海洋高等学校 生徒研究発表大会において優秀賞を獲得した。また、苓北町役場と連携して、都呂々（木場地区）の活性化事業に携わり、商品開発や週末カフェのイベントを企画したり、苓北町特産品を熊商デパートでPR販売を行った。
職員の資質向上	学校改革による業務改善及び校内研修の充実と研修等参加への積極的な奨励	校務分掌の活性化とミドルリーダーの育成	各担当業務における具体的な目標の設定とその進捗状況の把握。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本渡校舎では、1学期に実施予定の校内研修内容を精選し、夏休み1日での実施。オンライン研修の活用及び職員会議で15分程度の研修報告等により研修の充実と業務改善を図った。また、今年度から始まる「研修履歴の記録」を踏まえ、全職員へのオンデマンド及び外部研修の周知を図ることで積極的な外部の研修受講が増えた。ミドルリーダーである運営委員は、担当部署の運営、各部各科員の意見聴取、必要な事案について議事の提案を促し、協議・回答をすることで資質向上と業務改善への意識の高揚を図った。
働き方改革の推進	業務の整理や効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員を月平均9人以下とすることを目指す。（前年度平均9人） ・職員のメンタルケア。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用やペーパーレス化等業務改善策の定着を図る職場環境の整備によって、職員間の働きやすさを高める。 ・定時退勤日を設定し、定着を図る。 ・日々の声掛けと職員面談の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果において、職員の勤務してよかったと思うが、昨年度より10%向上した。 ・両校舎ともに朝会資料作成廃止及び会議資料等のペーパーレス化を推進し、ゆうネットやForms活用、校舎間オンライン会議等で校務のDX化を進めている。さらなる業務の整理及び学期1回程度の職員会議の縮減につなげたい。 ・時間外在校時間月45時間以上は、本渡校舎で平均

					<p>11. 1人、マリン校舎で平均6.3人という結果となった。業務改善に関する意見を調査し、改善に取り組んでいる。また両校舎による合同行事の打合せや管理職においては、オンライン会議をこまめに行い、業務の効率化を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の衛生委員会において、産業医の助言を受けながら職員への声掛け及び面談等のメンタルケアを行い、情報共有を図っている。 ・今後も週1回の定時退勤日(ライトダウンデー)の徹底や職員研修等を通して業務改善への意識の高揚を図っていく必要がある。
危機管理体制の強化	危機管理意識の向上と的確な対応	危機管理マニュアルの点検・見直し及び危機管理訓練の実施。	実験・実習・体育・乗船・行事における事前指導の徹底。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の火災避難訓練を本渡校舎は6月に実施した。マリン校舎は4月に実施し、合わせて地震並びに津波避難訓練についても行った。 ・本渡校舎は、天草支援学校と連携した避難訓練を年2回実施している。また、危機管理マニュアルの点検・見直しを図っている。 ・学校評価アンケートでは、安全教育に関する項目で、避難訓練について「わからない」と回答する保護者が34%おり、保護者との連携及び信頼関係構築に努める必要がある。 ・海洋航海コースは、船舶の救命講習も学校プールで実施し、救命筏に乗り込む方法や海上生存と発見率が上がる密集陣形などを行い、知識と技術の習得させた。
	学校管理下の事故未然防止の取組	実験・実習・体育・乗船・行事などでの事故「0」を目指す。学校評価アンケートで各評価者の達成割合85%以上を目指す。	定期的に劇物・薬物の保管管理状況の点検、施設・設備・実習船の点検を実施する。		A

						・点検、計画的な廃棄ができています。
学力向上	授業の工夫・改善	分かりやすい授業の研究と実行	研究授業の充実	公開授業週間及び研究授業と、それに伴う授業デザイン会と振り返り会の実施。	B	・計画通り年2回の実施ができた。 ・授業の工夫改善について、生徒は昨年度より高い評価をしている。 ・教職員の授業に対する工夫改善の達成感はやや低下しているため、参観後の授業改善の実態把握をすすめる。
		I C T教育の推進	1人1台端末利用促進	1人1台端末利活用事例の共有。I C T利活用計画作成。	B	・生徒、教職員ともにI C T活用評価は昨年度と比べて向上している。 ・生徒は段階を踏んでI C T活用スキルを身に付けているようだが、教職員のスキル格差を解消する手立てを見つけれなかった。
	基礎学力の定着・学習意欲の高揚	基礎学力の定着支援	成績不振生の学習支援	考査前学習会、学期末及び学年末における補習や補講の実施。	A	・個別指導や考査前には学習会を実施し学力保障を行った。 ・スタディサプリの導入により学習時間の把握がしやすくなった。
		生徒の学習意欲向上に結びつく体制作り	新しい学習指導要領の理念実現にふさわしい教務体制の構築	教科・科目の特性に合わせた評価ができるよう教務規定の見直しを行う。	A	・観点別評価に沿った教務規定の原案が完成し、現在検討している。
キャリア教育(進路指導)	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上並びに進路に関する諸能力育成を目指したキャリア教育の充実	生徒一人一人の特性等に応じた、きめ細やかな進路指導	生徒の適性や特性等を把握する機会を設け、その結果を活用して生徒の進路希望を尊重した進路指導を行う。	・職業適性検査を実施し、生徒の適性や特性を把握し、職員間での情報共有を図る。 ・進路希望調査を各学期に実施し、それに基づいて担任等による個別面談を実施する。 ・キャリアサポーターによる個別面談を行い、教員とは違う視点からの助言を活かした進路指導を行う。	A	・9月に1年生を対象に職業適性検査を実施し、担任がその結果をクラス生徒にフィードバックした。全学年で年2回の進路希望調査を行い、その結果を各学年で情報共有してその後の指導に活用した。3年生を中心にキャリアサポーターとの個別面談を実施し、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな進路指導を行った。(本渡) ・年度初めに1、2年生を対象に職業適性検査を実施し、その結果を用いて個別の進路面談を行った。進路希望調査を5月、11月、2月に実施し、生徒の進路希望を把握して学期末の面談に活用した。2、3年生を対象にキャリアサポーターの面談を実施することで、生徒の進路希望状況の把握に努め、一人一人に応じた進路指導を行った。(マリン)
		職業観、勤労観の醸成	学校で学ぶことと社会及び職業生活との関連について学ぶ場の設定を行う。	・働くことへの意識の高揚と職業適性の把握のために全学科の2年生を対象にインターンシッ	A	・7月に2年生全学科を対象にインターンシップを実施した。事前事後指導及び期間中の体験をとおして勤労観の涵養を図った。進路実現のために必要な情報収集能力を身につけた。(本渡)

				<p>プを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に限らず進学後の就労も含めた将来的な勤労について考えるための進路講話を年1回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学科の2年生を対象にインターンシップを実施することで勤労観の涵養を図り、生徒の職業適性の把握と進路選択の参考とすることができた。全校生徒を対象とした進路講話以外にも、校内進路ガイダンスを計画し、卒業生との意見交換をとおして、在学中の過ごし方や社会に出てからの在り方について考えを深めた。(マリン)
		進路情報の発信や進路希望等の情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報などをプリントや学校ホームページ、安心 ・安全メール等を用いて発信する。 ・家庭と学校、進路指導部と学年部など連携を綿密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への進路情報提供を学期毎に実施する。 ・進路希望調査や模擬試験等の結果を集約し、生徒に現状の把握と今後の方向性を持たせる。 ・職員の連絡会等を月1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにここ数年の進路実績を掲載し、情報提供を図った。求人票については「Handy進路指導室」を活用して生徒及び保護者がいつでも閲覧できる状況を構築した。(本渡) ・進路だより以外にも学校WEBサイトで進路行事の記事を配信し、情報の提供を行った。また、進路指導部会や3学年会を毎週開催し、情報の共有に努めた。(マリン)
生徒指導	自己指導能力の育成	基本的な生活習慣の定着について	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 ・自ら挨拶のできる生徒の育成 ・時間を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導時の挨拶励行。(生徒会活動含) ・教職員及び生徒間の挨拶に対する意識調査を行い改善に繋げる。 ・毎朝の登校指導を行い、継続的な遅刻指導を実践する。 ・スマホ等の依存からくる生活の乱れを全校集会やHR等を利用して改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や生活委員が定期的にあいさつ運動を行ったことに伴い、主体的に自らあいさつをする生徒が増えた。 ・基本的な生活習慣の確立において、本渡校舎では遅刻指導に力を入れた。今年のみならず、これまで数年にわたり継続して取り組んできた成果と全職員の協力のおかげで全体的な遅刻数の減少につながった。次年度以降も減らしていきたい。 ・SNSの使用方法など、学校全体で共通認識を持って考動できるような機会を早い段階で設定する。特にSNSの利用は生徒の日常に欠かせないものとなっているため、家庭での指導(フィルタリングの設定や使用時間の設定など家庭でのルール作り)を強化する必要がある。
			身だしなみを整え、清々しい整容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して定期的に整容指導を実施する。 ・生徒自身の整容面への意識向上を目的とする主旨を踏まえ、校則の見直しなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心として生徒が主体的に校則について考動し、校則や整容面など守ろうとする意識が少しずつ根付いてきたと感じる。今年度から携帯電話・スマートフォンの駐輪場での使用を認めたが、特に非常識な使用をしている場面はなかった。それに伴い校門を出

			を生徒とともに進め、教職員間の連携を図り、日常の整容指導に力を入れる。		てすぐのところで使用する生徒は減り、外部からの苦情も減った。 ・整容指導の面では、校則を見直して以降、心配はしていたものの、ほとんどの生徒が奇抜な髪形や染色はせず、考えた容姿で過ごせるようになっている。しかし、一部の生徒で長期休業中に染色、眉そり、ピアスなど、意識の低い生徒がいる。今後はよりそういった生徒に指導の徹底をしていかねばならない。生徒部だけでなく、全職員で協力して日常的な指導に力をいれていく。
	他者への思いやりと自尊心の育成	情報モラル教育の充実	集会や人権LHRを活用し情報モラルに関する講話を実施。また、情報安全・情報モラル教育についての職員研修を実施し、時代の流れに合わせた指導が実践できる教職員の資質向上を図る。	B	・今年もSNSによる誹謗中傷や不適切な投稿、知らない人とのコンタクトなど指導が必要な場面があった。ただ、1年生では比較的少なかったように感じる。入学後の宿泊研修での「SNS講話」なども効果があったかもしれない。2、3年生にはコロナ禍で全体での指導をリモートで行うなどしたが、やはり顔を見ながら反応を見て、直接的な指導を実践していくことの重要さを感じた。職員のSNSや情報モラルに関する研修を実施することができなかったため、指導力向上のためにも次年度は実施できるようにしたい。
	集団生活を通じた共生の心の育成	寮生活の充実（マリン校舎）	感染症対策と、寮生の人員増という面から、多くの負担を寮生には課している現状がある。少しでも寮生の意見をくみ取るために、部屋替えや面談を行い、寮生が自主的且つ安心して暮らせる寮の環境を整備する。	B	・今年度も生徒の人間関係等の状況に応じて部屋替えを各学年で複数回行うことができ、人間関係で寮生活を送ることができなくなるような生徒はいなかった。 ・体調不良者が出た場合には、即時に保護者連絡をすることができており、感染症の拡大による寮の運営ができなくなることはなかった。 ・寮内での生徒間トラブルは度々起きていたが、舎監長を中心に適切に対応できたことで、大きな問題に発展することはなかった。
	交通ルールの遵守	・自転車・原付の乗車マナーの指導徹底。 ・交通違反・事故件数の削減	・自転車通学生及び原付通学生に対しての講習会の実施。 ・通学生集会や講演会や教材等を活用し命の尊さにつ	B	・自転車通学生について、今年度も自転車ステッカーの貼替えや貼っていない自転車で登校をする生徒がいた。昨年度から引き続き見逃さずに指導したい。 ・交通事故、違反が2学期終了時点で全体で24件。内、事故が17件、違反が7件。ここ数年で最も多かった。交

				<p>いて考える機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全に関する標語やポスターの掲示を行うなど、啓発活動を活発にする。 ・交通事故現場での対応マニュアルを生徒へ配付する。 		<p>通安全に関する日頃の指導や計画的な講話や講演会の実施など次年度以降は今まで以上に積極的に取り組む必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期時点で事故違反が多かったこともあり、担任や学年にも協力していただき、集会などで交通ルールやマナーの話をし、その後は事故も違反も発生していない。事故も違反も未然に防止することが大切であり、次年度からはさらに予防・啓発に取り組む。
人権教育の推進	個人を尊重し、相互理解を深め、差別やいじめのない学校・学級づくり	生徒の人権意識を高める教育活動を推進できたか。	教職員一人ひとりが、人権教育実践の担い手であることの意識付けを図るため研修などを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業およびLHRにおいて人権教育に取り組む。また各学年で実践研修に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の人権教育LHRを実施することができた。また校内外や動画視聴での研修に職員の9割以上が参加した。 ・次年度以降の研修に役立てるため、研修に参加した職員の感想や、LHR担当者が授業を実践しての感想などを収集した。
	生命を大切にす心育を指導	安心して相談できる環境づくりと個に応じた組織的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権委員会の活性化を図る。 ・相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のきずなを深める」ための標語の作品募集。 ・個人面談期間を活用するなど、生徒が安心して相談できる環境づくりに取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の始めに二者面談週間を設定し、担任が生徒の不安や悩み事に寄り添う機会をつくった。 ・生徒から人権標語を募集し、校内に掲示した。連絡や取りまとめなどを生徒の人権委員が担った。
いじめの防止等	いじめ根絶のための啓発活動	組織的な対応	いじめ防止対策委員会の充実	担任、学年、学科と連携をとり、教育相談部など他の分掌部と協力してアンケートや面談週間を実施し、未然防止に取り組むと共に、いじめ防止対策委員会を適宜開催し、的確な対応や未然防止策を全職員で共有する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関して、把握し対応できていることは良いことではあるが、2学期時点で本渡校舎5件とマリン校舎19件と合わせて24件と非常に多かった。また、このいじめ問題に関する課題は報道の注目度も高く、年々指導が難しくなり、慎重かつ丁寧な対応がもとめられている。職員間で情報を共有し、全職員で見守りの体制や対応ができている。さらに今後は研修などを通していじめ問題に関する指導力を向上させていきたい。
		人権感覚を育み、良好な人間関係構築のための支援	具体的行動指標や標語、ポスター等作成	「いじめ根絶宣言」を全校生徒に周知し、全校集会や学年集会、L	B	いじめ問題だけでなく、様々な人間関係に関する課題や問題を未然に防止するためにLHRを活用した「人やものを大切にする

				HRを活用して、講話やポスター掲示や標語の募集を行い、生徒自らが豊かな人権感覚を磨く機会とする。		心」や「コミュニケーション能力」を育てる取組みなどをもっと計画的に実践するべきだった。これは生徒指導部だけでなく教育相談部や人権教育主任などともっと連携を深めて取り組む必要がある。
読書指導	豊かな心の育成を目指した読書活動の活性化	・図書館利用率（図書の貸し出し数）の現状を維持しつつ、数値向上を目指す ※昨年度 【本渡校舎】2.9冊 【マリン校舎】15.3冊	【本渡校舎】 ・貸出数年平均5冊/生徒一人あたり 【マリン校舎】 ・貸出数年平均12冊/生徒一人あたり	・全校で取り組む朝読書の定着 ・図書館内外の掲示展示・HPを活用した情報発信 【本渡校舎】生徒による学級文庫の更新 【マリン校舎】委員会による本の紹介	A	・朝読書の取組みは生徒・職員の十分な理解を得て計画通りに実施することができた。 ・生徒一人当たりの貸出平均冊数(12月20日現在)は本渡校舎5.25冊、マリン校舎13.4冊で概ね目標を達成した。 ・各クラス図書委員を中心に、自主的に学級文庫の選定・更新を行った。【本渡校舎】 ・週1回、昼休みの校内放送で本の紹介を行なった。(図書部門:原稿をChromebookで作成 放送部門:放送)【マリン校舎】 ・効果的に図書館情報を届けるため、ICTと紙ベースの両者活用が必要だと考える。
安全教育	事故防止の徹底と災害時の避難計画	危機管理マニュアルに沿った取組	防災意識の高揚 危機管理マニュアルの改訂と周知	危機管理マニュアルを改訂、配付し、防災意識の高揚、マニュアルの周知徹底を図る。	B	危機管理マニュアルを改訂して配付し、防災意識の高揚を図った。火災、津波、水害避難訓練を行った。支援学校と合同避難訓練や職員研究を実施することができた。
		校内安全点検	校内安全点検の徹底	安全点検を行い、改善箇所は迅速に対応する。	B	安全点検は月1回実施した。改善箇所は迅速に対応ができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	保護者や地域等との連携情報発信	育友会、同窓会、自治体、企業との連携	育友会、同窓会、地域の協力を得ながら教育活動を充実	学校行事や商品開発において、育友会、自治体、諸団体の協力を得る。	A	マリン祭ではカレーの炊き出しを、本渡校舎ではチャリティ餅つきを実施することができた。育友会でミニバレー大会を実施した。チヌを使用した商品開発も行った。
		広報活動の充実	地域への情報発信	ホームページの更新、学校新聞等の配付及びInstagramの開設。	B	学校新聞は写真を多めにして生徒の活動をわかりやすくしている。ホームページの更新を随時行った。